



ぬくもり

6 月号

No. 49

[平成24年6月15日発行]



輝く人とまち 人 つながる可見 — 「参画」と「協働」による“市民中心のまちづくり”

かどで 人生の 門出に乾杯!

あゆ 生きがいへの歩み



すべての子らに幸せあれ!

たびだち 学びへの出発



友だちとなかよく!

詩 学ぶ (谷川俊太郎 作より 抜粋)

あなたは学ぶ
目で学ぶ
どんなに見開いていても見えぬものが
閉じることで見えてくること

希望こそ 人生の 道しるべ

ドラマ 社会への舞台へ



誠実な挑戦と忍耐で!

平成23年度人権標語(入賞作品から)
(学年:当時)

そよ風

<p>最優秀作品 根っこから みんなでぬこう いじめの木 小野健斗(中学校一年生)</p> <p>優秀作品 やめようと 言える勇気が いじめをなくす 藤本明歩(小学校六年生)</p> <p>優秀作品 つくろうよ いじめがゼロの 学校を 間宮 輝(小学校六年生)</p>	<p>優秀作品 仲間でしょ 見てみぬふりは 悲しいよ 福島帆乃香(小学校六年生)</p> <p>優秀作品 悪口は イジメノ前兆 黄信号 丹野寛代(中学校一年生)</p> <p>優秀作品 ゲームじゃない! リセットできない その命 野田流星(中学校一年生)</p>
--	---

目次

- 平成23年度人権標語(入賞作品から) ①
- 平成24年度の活動と23年度報告のあらまし ②
- 特集コーナー「そばにある人権」について ③
- コーナー ④
 - ある日その時
 - 可児ぬくもりネットだより
 - ぬくもり・まゆちゃん◎

平成24年度の活動と23年度報告のあらまし

目標 啓発人口 6,500名／年

(本センターの活動に関わり合った人数)

重点

「そばにある人権の生き合い」と
「子どものいじめ防止パート2」
(小地域の人権教育のありよう)

～大人たちのぬくもりある自覚から～
未来ある子どもの育みを!!

理念 人は差異・多様ゆえに認め、学び合う人間主義で!



平成24年度「主事業」案内 ～皆さまのそばにある人権をめざします!～

公民館啓発活動

〈目的〉公民館まつりでの多くの方々の集いの機会において、人権の啓発を図る。
(他公民館は、今後巡回依頼予定)

〈場所と日程〉

①帷子公民館	5月20日(日)	午前中予定
②広見公民館	10月28日(日)	〃
③平牧公民館	11月4日(日)	〃

〈配布物等〉

- ぬくもりデザインティッシュ
- ぬくもりカード 他

子どもぬくもり教室

内容

- 絵字を書く有名な「ゆめ花」の書いた字
- 書いている模様の映写
- 「ゆめ花」の描く姿を借用他をツールとした人権教育を演出

・対象学年 小学校中学年(3～4年生)
学年対象(約100名程度)

・実施校:2校程度(抽選)

・所要時間:約30分位

・実施期間:12月の「ひびき合いの日」前後

・応募期間:10月15日(月)まで 本センターへ

地域ぬくもりの集い

詩人: 桑原 律 氏の ～ぬくもりのポエム～

詩心・トーク

・テーマ: 人権尊重の「心の絆」を結び合おう

・プロフィール: 日本児童文学者協会員・日本言語学会会員

日時: ①H24年7月21日(土) 13:30～(帷子公民館)
② 11月17日(土) 13:30～(広見公民館)

場所: ① ②

定員: 各150名

入場券配布: ①6月25日～29日 ②10月16日～31日 本センターにて(可児駅西側 総合会館分室・2F)

問合せ: TEL (63) 7990 9時～16時受付

～当日入場者にはハート(人権)バッヂを差し上げます～

特集

「そばにある人権」について ～近隣の生き合いを大切に～

最近「近隣の相談」が多くあります。本年度は、地域での人権を考えることにしました。

(意義)★小地域の絆を大切に—(絆の3つのキーワード)

「向こう三軒両隣」こそ、これからの高齢社会・災害発生社会の生きる大切な術(すべ)となります。その術である、互いの **支え合い**・**気づき合い**・**分かち合い** の大切な絆のキーワードの必要がそこにあるからです。



(提言)★人間の「生きる権利」は社会とのかかわりの中で存在します。

- ①「自分は、世界に一人」しかいません。顔かたちがみな違うように考え方も生き方も違います。こうした個性をもって生まれてきたのです。人は、一人ではすべてをまかないきれません。どうしても多くの人の集まる社会が必要になります。社会は、互いに生きるために助け合うことができるからです。このことで生きる権利を守ることがよりでき易くなるからです。
- ②人は、それぞれの道を一生涯社会の中で生きぬかねばなりません。そのために家族があり地域があります。家族とのことはもちろんのこと、地域での他人との関係が大切になります。自分一人我をはっても、地域社会では、みんなで決めたルールがあり自分勝手ではうまく生きられないことが多いのです。
- ③人権とは、「人間が人間らしく幸せに生きていくための権利」と言われます。国に守られながら、個人としては人とのかかわり合いを少しでも良くしていく努力義務を負いながら幸せに生きていける存在になることをいうのです。



(現況)★地域において、互いに生き合う交流を

こうしたなかで自分の今の人間関係が、満足である人は少ないと言われます。考えと生き方が皆違うからとはいえ、多少わずらわしく思うことも理解し合うことにより是認することは人間として持っている寛容の証しです。

こうした上に次の切迫的な現実があります

★自分の家族だけでは生き難い時代です。

- ①日本は、世界一の誰も体験したことのない高齢社会だからです。
- ②災害等の発生がいわれているからです。
 - (その1)高齢化率は、年々上昇しています(可児市:22年現在21.4%/32年予想:29.7%)
 - ・身体が動き難く、言動も忘れがちになってきます。
 - ・独居世帯が増えてきています。
 - ・核家族化が進んでいます。
 - (その2)東海地震等の発生が予想されます。(30年以内の明日にも発生確率:88%)
 - ・発生時助けてくれるのは、自分で守るほかは隣・近所の助けが最も多いと言われます。



★こうしたことは、「いざ」と言う時の生命にかかわる問題の多くであり、普段からの「生きる権利の心得」からも近隣の友好はより大事にしていきましょう!(次号は住む具体的な心得について)

あふロンドンの時



「オリンピック精神は勝つためのものか？」

もうすぐイギリスのロンドン大会です！

★近代オリンピックを提唱したのは、(仏)のピエール・ド・クーベルタンです。

★オリンピックは、初めは女性選手禁止でした。ご存知でしたか？

(つづ)

五輪は、何のために始まったのでしょうか？

★「世界の平和を築くためです」

世界中の人々が一堂に集まり差別なく友情を高め交流することで平和を築くためなのです。また運動は、誰でもでき、参加しやすいのでスポーツ競技にしたのです。だから「平和の祭典」と言われるのです。

★「人権を守るためです」

地球上に同じ人間として生まれても、生まれの国により、大きな貧富の差等の違いがあつて良いものだろうかと考え、世界はひとつ、心はひとつであるとのスロガンで、この国からでも参加できるスポーツの競技大会を提唱したのです。だから「勝つことなく参加すること」に意義があると言ったのです。

★目的は、

「スポーツを通じ、友情を育みながら、あらゆる差別を無くすことを学び、互いに助け合い平和でより良い世界をつくること」を、参加した人が自国の覇者となり、貢献してこいと言ったことなのです。

(つづ)

あるマラソン選手の感動的なおはなし

アトランタオリンピックの男子マラソン競技のこと。

アフガニスタンの選手が、2時間半遅れてゴールした。この選手は、なんと高校生であった。この選手いわく「アフガンでも人々がちゃんと生きていけることを、世界の人のみてもういたかった」と。

戦争で荒廃した祖国のために走りぬいたのだ。

(編者)

まゆちゃん

〈未来の夢は大きくもとうね!〉

作：多々／画：miho



(本作品は、全て本職員でつくられています)



(本センターホームページ)

可児めぐもりネット だより

(今週のビタミンから)

今こそ大切なこと (東日本大震災2周年を思うより)

今週のビタミン 投稿日：2012年3月11日編

大震災・原発事故から今日まで、日本の歴史上多くの学ばべきことを知る一年でありました。何百・何千の教訓がそこにあるからです。人間として、国として、政治として、経済として、科学(教育)としてのありようの全てがこの出来事に含まれているからであります。

高村薫氏(作家)がNHKの特番で話していたこと(大要)は、「日本がこの災難でどう変わったと言われるようであればならない」「今までと同じようなことをする、やっつけてはならない」と言っておりました。

一切の根底からの出直す大きな曲がり角にある気がするのです。その為には、根底に原点と言ふべき「人間として」の視点が大事であろうと思わずにいられないのです。国として、政治として、経済として、科学(教育)として、「だれのためにあるのか、なんのためにあるか」を問うことだと思えます。

それは、「人間が人間らしく幸せに生きていくためのもの」との人権の定義の実現のためであると思うのです。この尺度で考えるとき、(国)政府は、国民が幸せな生活ができる国としての今と未来をどうしたら良いのかを考え、そのためには、政治は何をしなればならないのかの法整備等をし、人が幸せになれる経済を担う会社は、どうあるべきか、科学(教育)は、いかに未来を心豊かな生活となるよう、どう夢と希望をもたらし実現したら良いのかを考へることではないでしょうか。

「だれのため、なんのために」の原点を常に考えて社会のあらゆること、思考と行動がなされれば、この度の災害の対応もまた原発のありようも反省でき、今後のありようとしてどうあるべきかは、自然と考えられ、少しでも人間らしい方向へと転換していくに違いありません。あらゆる組織の長の一念がこのことに基ついたとき、新生日本としての復興ができるものと思えます。

募 集

めぐもり人権啓発「標語と300字小説」

●テーマ

いじめ等に対する、人としてのめぐもりを感じられる文面(小説は会話をとらぬこと)

●応募資格

市内在住の人(小中学生(高一)はがきの表に住所・氏名・電話・裏に作品(小説1点、標語2点まで)

●応募期間

7月12日～9月20日(消印有効)

●入賞作品数

標語約30点、小説約7点(11月初旬本人通知)

●入賞発表

小中学生は、学校から人権週間(12月5日～10日)市役所ロビー等で展示、また機関紙「めぐもり」等に掲載

●作品展示

入賞者には、表彰状と図書券を贈呈(小中学生は学校から)

●あて先

本センター宛(本表紙で参照)

編集後記(啓発のひかり)

新緑が萌え、吹く風も心の中を通るようです。人の心も四季にいろいろ弾んでいきます。本紙マンガの「めぐもりまゆちゃん」の夢を大きく持つて生きていくことの大切さも感じます。

本センターでは、4月からこれまで活躍の和田さん・平田さん・山崎さんが辞任され新たに大野さん・渡辺(一)さん・石井さん・奥村さんが就任しました。市民の皆さまの「そばにある人権」に心がけて推進してまいります。

(編集者：川手靖猛)